

行政視察報告書

平成 28 年 7 月 26 日

貝塚市議会議員 中山 敏数 殿

自由市民 食野 雅由
田畑 庄司
田中 学

[調査目的及び訪問地]

第 1 日 平成 28 年 7 月 21 日 (木)
熊本地震について
熊本県 熊本市 益城町 西原村

第 2 日 平成 28 年 7 月 22 日 (金)
熊本地震について
熊本県 人吉市

{第 1 日} 平成 28 年 7 月 21 日 (木) 熊本地震について
熊本県 熊本市 益城町 西原村

今回の会派視察は、今年 4 月 14 日に発生した熊本地震の現在の被災現場の状況や、行政の取組み等を実際に見て、今後の活動に役立てるために、熊本県議会議員溝口幸治氏に視察の受入れをお願いしました。

熊本県庁で溝口議員と自民党熊本県連の松本将門氏に合流し、車で被災地の現場に向きました。最初に訪問したのは熊本城で、報道されているそのままの悲惨な状態でした。熊本のシンボルである、熊本城の大きな石垣が崩壊したのを見てとても驚きました。次に向いたのが阿蘇山の麓に位置する西原村で、大きな被害を受けた南阿蘇村の手前に位置する山間部の自治体です。多くの家屋が木造の日本建築であり、屋根が瓦葺きで、

約半数の家屋がブルーシートで覆われ手つかずの状態でした。道路は至る所で亀裂が残っていました。村内を視察した後、村から少し離れた峠の蕎麦屋で昼食をとりました。経営者にお話を伺ったところ、「うちは幸いにも、断層から離れていて大きな被害が無かったのですが、お客様が以前の半分以下で、一日も早い復興を願います。」と仰っていました。被災者はもとより、被災地の経済の復興はまだまだ遠いものだと実感しました。昼食を済ませ、次に西原村の仮設住宅を視察しました。

屋根瓦が落ちた天守閣



崩落した石垣



西原村の仮設住宅は、当初被災した住民のために少しでもより良い住環境をと、豊富にある熊本産の木材を使用し、グレードの高い仮設住宅を用意されましたが、建設に時間がかかり被災者が待ち切れず、やむなくプレハブの仮設住宅を建設されたそうです。木造とプレハブの仮設住宅が並んで建っているところを視察しましたが、木造の仮設住宅は長期にも使用できそうな良質のものでした。ここでは、行政と被災者との間に考えのずれがあったようです。

西原村の被災した家屋



今なお残る道路の亀裂



長期間入居出来る木造仮設住宅



仮設住宅に掲げられた横断幕



続いて、今回の地震で最も被害の大きかった、益城町と熊本市に行きました。益城町は、地震発生直後に報道で紹介されたそのままのように感じました、よく見ると所々で解体が進んでいるものの、倒壊した家屋がそのままの状態に残されていました。益城町長は、町が二分する熾烈な選挙戦を戦い抜き当選された、就任一年目の行政経験の浅い町長であったため、地震直後の対応には、上手く手腕を発揮されなかったそうです。こういう時ほど経験があって政治的判断が長けている首長がいることが一番の危機管理であると思いました。

益城町の被害の状況



益城町に続いて隣接する熊本市内も視察しました。熊本の中心部に近づくにつれて被害も小さくなっていました。その後県庁の隣にある自民党熊本県連のビルに案内され、今回の熊本地震の県としての対応状況を溝口県議から説明を受けました。

益城町の被害状況



先ず、地震の概要説明がありました。それは、布田川断層を中心に震度7の地震が立て続けに2回発生し震度6弱以上の地震が7回、余震の発生回数は1900回を超えていると説明がありました。それから、被害の概要避難所と避難者の推移とライフラインの復旧状況等の説明を聞きました。そして、発災当初の国・県の対応及び復旧状況等の説明がありました。その説明によると政府の対応は思いのほかスピーディで、色々な支援のアイテムがあって大変助かったと申されていました。議員の対応について、熊本県議会最大会派の自民党は、議員個人から県当局に対しての要望を地震後72時間は、会派の幹事長が預かり、個々に要望しないよう通達されたそうです。これは、我々議員が活動をする上でとても大事なことだと感じました。その後、様々な観点から、意見交換を行い第1日の視察を終えました。

溝口県議による説明



自民党熊本県連前で記念撮影



{第2日} 平成28年7月22日(木) 熊本地震について
熊本県 人吉市

視察第2日は、熊本地震において比較的被害の少なかった県南の人吉市に視察をお願いしました。午前10時に人吉市役所仮庁舎の2階会議室に案内され、前日に続いて溝口県議も同席されました。冒頭、人吉市議会副議長仲村勝治氏から歓迎の挨拶を頂きました。そして、我が会派の食野代表から謝辞を述べました。その後、人吉市総務部防災安全課防災安全係長深見晃氏から今回の人吉市の現状報告について説明を受けました。それによると、人吉市の震度は、4月14日の前震で震度4、4月16日の本震で震度5弱でした。14日に自主避難所2カ所を開設し、第2警戒体制を引いて、消防団120名による巡回を実施されました。4月16日の本震では、非難所8カ所を開設し、災害対策本部を設置し第1回対策本部会議を開催、市役所本庁舎が築53年経過して使用できなくなり、災害対策本部を人吉城歴史館へ移設、4月25日までに12回対策本部会議を実施し4月27日から災害対策本部から災害連絡情報本部に切り替えられたそうです。

仲村副議長からの歓迎の挨拶



仮本庁舎2階会議室での研修



続いて、被害の大きかった熊本市を中心とした県北への支援プロジェクトについて説明を受けました。まず、4月21日熊本市南区役所・東区役所、4月26日に熊本市アクアドームに市民と協働で支援物資を提供されました。次に、被災地児童生徒の就学受入れ、被災者の受入れに伴う住居の提供、そして、被災地への職員派遣でした。それは、熊本市への救援援助物資配送（トラック付）、御船町への総合相談業務、益城町への在宅避難者の健康調査、宇土市への住宅の被害認定二次調査であったそうです。この職員の派遣が被災地近隣自治体の大きな役割であったように思います。

最後に現在の状況とこれからの課題について説明がありました。6月定例会一般質問では、12人中11人が地震関連の防災対策や市庁舎移転建設、震災後の観光産業の取組

みなどの質問があったそうです。質問内容は、人吉市では人的被害や家屋の倒壊等がなかったが、大規模災害において、自治体が行政機能、行政活動を維持するために、事前に必要な資源の再配分や対応方針、手段を定める業務継続計画（BCP）を早期に策定することが望まれるとの事でした。そのため、策定体制を整え年内に完了されるそうです。説明の中で溝口県議から、県からの視線での補足説明が適所でありました。今回の地震に対しての政府の対応は、人的・量的に豊富で時間も待たずに支援されたそうです。今まで日本が経験した地震の苦難が教訓として活かされていると感じました。最後に質疑応答、意見交換をして視察を終了しました。人吉市で感じたことは、市役所本庁舎の耐震対策が後回しになり、このような事態になったということです。貝塚市に置き換えると、本庁舎の建替えを含めた耐震の検討が急務であると言わざるを得ません。

昼食後、人吉市を中心とした「人吉球磨」が文化庁の認定する日本遺産に昨年選ばれ、その中心である人吉城歴史館で説明を受けました。その後、国宝青井阿蘇神社等を見学しました。

以上、視察報告と致します。